

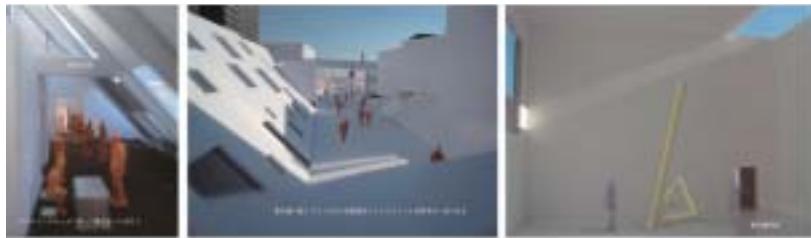


## 都市を貫く美術館

170mのガランドウ

井上 潔 (いのうえ きよし)

東京理科大学 理工学部 建築学科



都市圏の学校とは学生にとって街にとってなんのだろうか。その問い合わせ今回の卒業設計に臨む。敷地は東京都港区西新宿3丁目にある東京タワー目の前の都立芝公園に隣接して立地する3つの学校を選択する。まず学校が3つ隣接していることの場の力を導きだし、次に浜松町の街にとって貴重な存在である都立芝公園と学校のプログラムを共存させる事で2つのプログラムが活かされてくる学校の形態を用いる。タイトルの1部のnetは、学校の形態が網（net）状であるということ、学生の生活をウェブ（network）のようにイメージしながら設計したという2つの意味がある。単に学校は「子供の学び場」というだけでなく地域の力を活かし「生涯の学び場」であるべきではないかと考える。



**【講評】** 計画地は六本木交差点から芋洗坂を少し下った閑静な場所である。表通りに林立する中層のビル群と戸建て住宅地に挟まれたエリアに点在するコインパーキングの存在に違和感を覚えた作者が、その土地を掘り下げるような形で計画した美術館である。

中央にレイアウトした長さ170mの道路状の広場の両側に、45度に傾斜した外壁の展示スペースを設けた。その圧迫感のない空間とダイナミックな造形に目を奪われる。

中央広場から隣接地の地盤面へと続く傾斜した外壁は両翼がシンメントリーではなく、片一方の外壁は45度からやがて水平へとねじれながら連続してゆく。そのねじれがシャープなデザインの中に柔らかさを演出している。外壁の素材によっては、おもしろい空間になりそうだ。中央の道路的な広場は通り抜けるためのものではなく、両翼の展示スペースを行き来するときに横切る空間であり、それぞれの場所で変化した景色を楽しむことができるだろう。

(審査員：飯嶋茂信)